

ISOを知る、伝える、広げる、会報誌

Vol.102

ISONET

BL-QE



center for better living



一般財団法人ベターリビング
つくば建築試験研究センター
日本建築学会作品選奨を受賞した「試験研究本館」

New Year's Message

新年のご挨拶

一般財団法人
ベターリビング システム審査登録センター

上級経営管理者 長崎 卓
センター長 東ヶ崎 清彦

一般財団法人ベターリビングの試験研究機関の紹介

信頼できる公的試験機関

つくば建築試験研究センター

一般財団法人ベターリビング
つくば建築試験研究センター 所長 藤本 効

北から南から

BL-QE新規登録組織
2014年9月度～11月度

BL-QE Information

- 着々と進むISOマネジメントシステム
改正ステップ
- JIPDEC認定シンボル切り替えのお願い

一般財団法人

ベターリビング システム審査登録センター(BL-QE)

新年のご挨拶 *New Year's Message*



新年あけましておめでとうございます。
旧年中は当センターをご活用いただき
ありがとうございました。
本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター
上級経営管理者 たかし 長崎 卓

昨年11月、一般財団法人ベターリビング システム審査登録センターの上級経営管理者に就任した長崎です。品質、環境、情報セキュリティ及び労働安全衛生に関するマネジメントシステム(MS)について、公正な第三者として信頼性のある方法で審査・登録する機関の上級経営管理者として、引き続き登録組織の皆さまのご期待に応えられるように、審査等の体制を整え、より良いサービスを提供できるよう取り組んでまいりたいと思います。改めてよろしくお願いいたします。

ISO-MSは今日の組織運営に必須のツール

さて、昨年の我が国経済は、全般的には景気の緩やかな回復基調が続いているとされるものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が予想以上に長引き、弱さの残る展開となりました。今年こそは、裾野の広い本格的な景気回復の歩みが見えてくることを期待したいと思います。

ただ、一方で消費者マインドの低下や海外景気の下振れなど、我が国の景気を押し下げるリスクには留意する必要があります。加えて、近年各地で頻発する自然災害や事故、為替変動等から、日常の業務における大小様々なリスクまで、組織を運営する上で考慮しなければならないリスクは実に多岐に及びます。

もちろん、そのようなリスクを全て管理下に置くことはできないのですが、想定されるリスクをできるだけ低減し、不測の事態にも適切に対応できるようにするためには、ISOマネジメントシステムを通じて、生産、販売、流通、アフターサービスといった業務のプロセスを見える化し、不断の改善を進めていく

ことが、今日の組織運営には欠かせないと考えております。

新規格に向けた早期の対応を

そうした中で今年は、規格改正作業が進められてきたISO9001(品質マネジメントシステム)とISO14001(環境マネジメントシステム)の最終案がそれぞれ春にも作成され、決定に向けた投票が開始される見込みです。今回の規格改正では、既に様々な情報源を通じてご承知の通り、これまでそれぞれ異なっていた規格の構造を共通化して再構成するとともに、組織の実態に沿ったマネジメントシステムとして、経営層にとっても分かりやすく使いやすい内容に改正されます。

繰り返しになりますが、経済社会の動向が不透明な中で、組織にとってのリスクを的確に管理し、むしろビジネスチャンスの拡大につなげていくために、ツールとしてのISOマネジメントシステムの積極的な活用が期待されます。このため、新規格に基づく認証への移行を、組織全体でより効率的・効果的なマネジメントシステムの構築に生かすため、それぞれの組織においていち早く新規格への対応を検討していただければ幸いです。

ベターリビング システム審査登録センターでは、役職員一同一丸となって、登録組織の経営管理の充実・企業価値向上へのお手伝いに努めてまいります。皆さまには、引き続き当センターをご活用いただきますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

ISO新規格が動き始める2015年。 登録組織の皆さまの飛躍の年に――

新春のお喜びを申し上げます。
皆様におかれましては
よき新春を迎えられたことと存じます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人 ベターリビングシステム審査登録センター

センター長 東ヶ崎 清彦

昨年を振り返ってみますと、1月には食品工場が製造した冷凍食品への農薬混入事件、3月には電機大手研究データ流出事件の技術者逮捕、7月には教育事業大手の顧客情報の流出、9月にはサプライヤー工場である食品加工会社の品質期限を過ぎた鶏肉使用等々、多くの社会的問題が発生いたしました。これらの問題がマスコミを賑わすたびに、事業継続のためには、リスク管理の重要性とその管理ツールであるマネジメントシステムの必要性が再認識されたのではないのでしょうか。

一方、マネジメントシステム規格に目を向けてみますと、ISO/IEC27001が一昨年に改正され、昨年JIS化されました。この改正ではマネジメントシステムの規格間の整合化が図られ、また組織の負担を軽減することを目的に、共通的な全体的構造が採用されました。その中で組織のリスクへの取り組みの追加がなされる等、リスクに関する重要性が認識された改正となっています。つまり、規格の方も、組織の事業継続のために役立つものへと変化しているのです。

ISO9001及び14001等の規格改正は システムを見つめ直す絶好のチャンス

今年は、ISO/IEC27001と同様、共通的な全体的構造の基、ISO9001及びISO14001も改正がなされます。

この改正は、規格の外見上、構造から変更される内容となっていますが、その内容はトップマネジメントのリーダーシップやリスクに関する考えが強化される等の変更があるものの大幅な要求事項の追加はなく、今までの二重帳簿のようなシステムのスリム化や他のマネジメントシステムとの統合等、組織の実態にあったシステムが構築できる、組織のために有効な

規格の改正になっています。言い換えれば、現状のシステムが形骸化したマネジメントシステムであるならば、これを改善できる絶好のチャンスが来たのだと考えられます。

現時点ではISO9001及び14001は、本年の比較的早い時期にFDIS(最終国際規格案)からIS(国際規格)になる予定になっています。このISが制定されてから3年間の間に移行登録を行うことになっていますが、今から準備を進めていけば逆に3年の期間があり、その間にじっくりと自社のマネジメントシステムを見直すことができるということです。組織に合った良いマネジメントシステムに作り直す時間が十分にあり、かつマネジメントシステムというツールの棚卸ができるチャンスであると考えられるのではないのでしょうか。

規格改正に向けての的確な情報発信

このような改正の意図を的確にかつタイムリーに組織の皆様にお伝えすることがシステム審査登録センターの課題であると考え、メルマガ「ISO NEWS」や会報誌「ISO NET」における情報提供の他、ISO9001及び14001のFDISが出る時期に規格改正説明会等のセミナー開催を予定しております。また、規格改正説明会等については各地方の組織の方がより参加されやすいように数多くの地方都市での開催を予定しておりますので、より多くの皆様のご参加をいただければ幸いです。

マネジメントシステムの規格の改正を機会に、審査のための審査ではなく皆様にとってより有効な審査の提供ができるよう努力していく所存ですので、これまで以上にご愛顧賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

北から 南から

BL-QE
新規登録
組織

■2014年9月度

●ISO 9001:2件 ●ISO 14001:1件 ●ISO/IEC 27001:2件 ●OHSAS 18001:0件

■2014年10月度

●ISO 9001:0件 ●ISO 14001:0件 ●ISO/IEC 27001:1件 ●OHSAS 18001:0件

■2014年11月度

●ISO 9001:0件 ●ISO 14001:0件 ●ISO/IEC 27001:3件 ●OHSAS 18001:0件

詳しくは、ベターリビングホームページをご覧ください。

2014年 ISO 9001 登録組織

9
月
度

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1527	R・dot・S 株式会社	福岡県飯塚市	内外装華飾材および建築材料の製造ならびに販売、これに付帯または関連する一切の業務
Q1528	株式会社 サンワックス	埼玉県熊谷市	清掃・警備・設備管理・環境衛生管理・事務サービスのうち、2つ以上を組み合わせた総合ビル管理サービスの企画及び提供

ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E426	株式会社 サンワックス	埼玉県熊谷市	清掃・警備・設備管理・環境衛生管理・事務サービスのうち、2つ以上を組み合わせた総合ビル管理サービスの企画及び提供

ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS064	株式会社 クロスポイントソリューション	東京都中央区	情報セキュリティを主軸としたITソリューションに関する導入前検討・導入・導入後までの一貫したサービスサポートの提供 IT関連製品の販売 人材派遣業 上記に付帯する一切の業務
IS065	株式会社 ドリーム・アーツ沖縄	沖縄県那覇市	人事・総務・労務、情報システム管理、BPO、データセンター業務

2014年 ISO/IEC 27001 登録組織

10
月
度

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS066	株式会社 ネクシーズ 管理本部及び関連会社	東京都渋谷区	・懸賞キャンペーン方式並びに業務受託方式による説明型テレマーケティングサービスの管理業務 ・ISP事業及びインターネット関連サポートサービス ・メールマガジン発行及び会員運営サービス並びにE-mail配信による広告・リサーチサービスの管理業務

2014年 ISO/IEC 27001 登録組織

11
月
度

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS067	株式会社 エス・エス・アイ	福岡県北九州市	コンピュータシステム開発
IS068	株式会社 ディアンドアイシステムコンサルティング 本社	福岡県北九州市	コンピュータシステム開発
IS069	コムウェア 株式会社	東京都新宿区	コンピュータ・システムに関するコンサルティング業務、設計開発業務、保守業務、及び関連する一切の業務

お詫び

2014年7月22日に発行致しました『ISONET』Vol.100(P1)におきまして、誤りがありました。正しくは以下の通りです。

(誤) 2014年3月度 ISO 14001 登録組織 株式会社 ネットビジョン

(正) 2014年3月度 ISO/IEC 27001 登録組織 株式会社 ネットビジョン

株式会社 ネットビジョン様、読者の皆様、および関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

国際規格案 (DIS) が承認され、最終国際規格案 (FDIS) の起草へ

着々と進むISOマネジメントシステム改正ステップ

■ISO9001規格改正状況について

11月27日現在の状況は、ISO9001の国際規格案 (DIS) についての3ヶ月間の投票が10月10日に締め切れ、賛成64、反対8で次のステップに進むことが承認されました。この事は、ISO9001改正を担当している委員会議長のナイジェル・クロフト博士が、下記のサイトでインタビューに答えています。

http://www.iso.org/iso/home/news_index/news_archive/news.htm?refid=Ref1905

今後は、寄せられた3000ものコメントへの対応を行い、来年5月～7月に最終国際規格案 (FDIS) が発行される予定です。最終国際規格案 (FDIS) が発行されると、国際規格 (IS) として承認するか否かの2ヶ月間の投票が行われ、承認されると7月～9月に国際規格 (IS) ISO9001: 2015として発行されます。これが2ヶ月程度で邦訳され、9月～11月にJIS Q9001: 2015が公示される予定です。

■ISO14001規格改正状況について

ISO14001の国際規格案 (DIS) の投票は、11月28日に締め切れ、賛成54、反対5で承認されました。反対は、アルメニア、オーストリア、カナダ、コロンビア、スペイン。日本は賛成票を投じました。寄せられた1000を超えるコメントは、事務局でとりまとめが行われ、来年2月2日から7日まで東京大学本郷キャンパスで開かれる日本での会合で対応が検討され、最終国際規格案 (FDIS) が起草される予定です。

この会合の後、2月9日 (月) に東京経団連ホールで、「ISO14001 (環境マネジメントシステム) 改正 国際シンポジウム～事業戦略と環境経営の一体化を目指して～」が開催されます。

http://www.jsa.or.jp/standard/meeting_02.asp?fn=iso14001sympo.htm

このシンポジウムでは、改正内容の最新状況と各国の取り組み事例のほか、国内産業界を代表する企業や認証機関等によるパネル討議を通じて、今改正を踏まえた今後の環境経営のあり方について、様々な観点から考察・提言がある予定です。ISOで規格を作成している方々の思いを直に聞くことのできる良い機会です。是非ご参加ください。

ISO14001: 2015発行までの予定は、最終国際規格案 (FDIS) が発行され2ヶ月間の投票の結果、承認されると6月～7月に国際規格 (IS) が発行される見込みです。ISO14001: 2015が発行されると2ヶ月ほどで邦訳され、8月～9月にJIS Q14001: 2105が公示される予定です。

BL-QEからのお知らせ

▶規格改正説明会 (無料) の開催

一般財団法人ベターリビング システム審査登録センターでは、最終国際規格案 (FDIS) が発行され、その邦訳版が出版された段階で、国際規格 (IS) 発行前から、新規格の説明会および認証登録移行についての説明会を開催いたします。詳細が決定次第、メールマガジン「ISO NEWS」、会報誌「ISO NET」を通じてご案内いたします。

▶規格改正説明会開催地域についてのご希望をお寄せください。

現在の開催予定地は、札幌、青森、秋田、仙台、大宮、東京 (3回)、名古屋、大阪 (2回)、広島、福岡、熊本、鹿児島です。他に説明会開催をご希望の地域がございましたら、下記までご連絡ください。出来る限り皆様のご希望に沿う形で計画させていただきます。是非、皆様のご希望をお聞かせください。

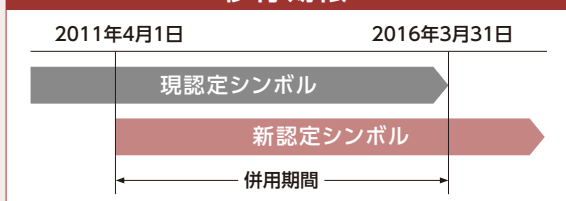
企画課 担当: 山賀 yamaga@cbl.or.jp

ISO/IEC27001認証登録組織の皆様へ

JIPDEC認定シンボル切り替えのお願い

一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC、旧称: 財団法人日本情報処理開発協会) は、2011年5月31日付で認定シンボルを変更致しました。現認定シンボルは、2016年3月31日まで使用可能ですが、封筒、名刺、パンフレット、ホームページなどに使用している場合、使用期限までに順次切り替えてくださいますようお願い致します。新JIPDEC認定シンボルは、弊センターのホームページからダウンロードできます。詳しくは、企画管理部管理課 (03-5211-0567) までお問い合わせください。

移行期限



※新JIPDEC認定シンボルは、必ず弊センターの登録マークと組み合わせてご使用ください。

信頼できる公的試験機関

つくば建築試験研究センター

一般財団法人ベターリビングは、優良住宅部品（BL部品）の認定や建築確認検査、住宅性能評価、またISOマネジメントシステムの審査登録のほか、建築物の設計・施工・部品・材料に関わる調査研究や技術開発とその成果の普及活動を行っています。目的は、安心安全で環境に優しく、持続可能な住まいづくりと暮らしの実現へ貢献すること。そのために求められるのが、公正中立な立場での認定試験や調査研究です。ベターリビングが開設した「つくば建築試験研究センター」（茨城県つくば市）は、BL認定試験をはじめ、国土交通大臣の指定を受けた性能評価試験等を実施するなど、信頼できる試験研究機関です。今回はこのつくば建築試験研究センターの藤本所長に取材しました。



藤本 効

一般財団法人ベターリビング
つくば建築試験研究センター 所長
博士(工学)

試験はセンターのメイン業務

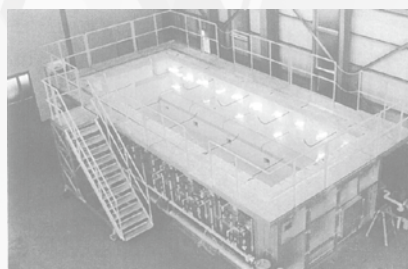
一般財団法人ベターリビングの中心となる業務は、優良な住宅部品の認定と普及活動です。財団設立当初の名称が「住宅部品開発センター」であったことから、お分かりいただけると思います。優良な住宅部品であることを評価するには、いわゆるハード面のチェックが必須です。そのチェックを認定機関が自ら行うため、1981年に設置したのが、「性能試験場」（現、「つくば建築試験研究センター（Tsukuba Building Research and Testing Laboratory）」）です。

このセンターでは、「構造」「環境」「材料」「耐火」の4部門が、建築に関わる

様々な試験や調査・研究等を行います。メインの業務は、建築部材・建材などの性能確認試験、BL認定に関わる評価試験、建築基準法に基づく性能評価、住宅品質促進等に関する法律に基づく性能評価試験です。また、建築に関わる構工法、設計方法、材料、部品、設備等が法令や学会等の技術規準が求める性能を満足するものであることを評価する評定業務も行います。

例えば、カタログスペックを自社試験よりも第三者性の高い機関の試験で証明すれば、より高い信頼と説得力が得られます。このように、製造者と使用者、消費者の間に立ち、情報（試験成績書や評定書）を提供するのが独立性を有した試験機関の仕事です。

試験の依頼は、建材メーカー、ゼネコン、業界からが大部分を占めており、依頼があれば日本全国どこでも対応可能です。商業ビルやマンションのオーナーから建物調査依頼を受けることもあります。東日本大震災以前から耐震診断結果の妥当性判定依頼が多くありました。東日本大震災に関しては、情報提供の一環として地元茨城県とその周辺地域の建



屋根や床の耐火構造試験（水平加熱炉）

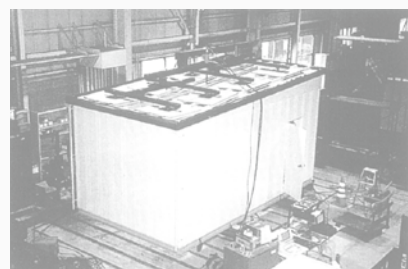
物や宅地地盤などの被害調査を独自に行い公表しています。

業務の対象は建築物だけだと思われがちですが、地盤（宅地）やそれに関連したものの試験、調査、研究も主要なテーマに据えています。これまで日本では、建築に適した土地に住宅を造ってきましたが、適していない土地を開発して住宅を建築するケースも稀ではありません。もし建築物に100年、200年の寿命を求めるのであれば、地盤も同様に安定している状況を担保する必要があります。これも私たちの重要なテーマのひとつです。

建物性能が優れていても地盤が不安定では、その性能は無に等しいと言ってもよいでしょう。

知見をオープンにして 建築技術の向上に寄与する

学術的、開発的な調査・研究には、試験と同等に力を注いでいます。自らテーマを設定し研究する以外に、必要な施設やスタッフを有していない企業の開発業務支援も行っており、その成果により商品化したものも数多くあります。また、特許を取得した構法もあります。基本的に独



ガレージの強度試験



日本建築学会作品選奨を受賞した「試験研究本館」の内観。積極的に自然エネルギーを活用し、空調・照明の省エネシステムを導入した。

自の研究成果やそれを元に完成した技術は、オープンにします。これはビジネスではなく、日本の建築技術の向上に寄与するといったスタンスの表れです。

ISOのように、建築分野の試験基準をグローバルで一致させるという考え方がいまや世界の主流です。そのため、CIB(建築研究国際協議会)やRILEM(国際材料構造試験研究機関連合)のメンバーにも加わっております。

国際的な活動として、JICA(独立行政法人 国際協力機構)の依頼で専門家を派遣しています。このセンターが関わるのは、防災技術の向上に関わるプロジェクトで、派遣先において現地技術者の指導を行ったり、対象の国からの研修者を当センターで受け入れ、試験技術等を学んでいただいたこともあります。

日本建築学会作品選奨の建物は 新たな知見を生み出す拠点

これらの試験・研究を進めていくには、様々な分野の技術者が日常的に集まって横断的に対応する必要もあります。

そこで、各分野ごとに分散し執務していた職員の意思疎通をより高めることを考慮し、試験研究本館を新設しました。この建物は、2013年日本建築学会作品選奨を受賞しました。

我々のアイディアを盛り込んだこの建物は、木造と鉄筋コンクリートのハイブリッド構造で、環境性能を考慮して窓は遮熱性能の高い複層ガラスを採用するとともに、自然エネルギーの積極的な利用を目指して、建物を支持する杭を利用して地熱を採熱し冷暖房に使っています。地下水の温度は、概ね17℃から20℃と年中一定なので、冬は補助的に暖房するだけ、夏はそのままで涼しく過ごせます。研究テーマを自ら実践した“実証棟”といえるでしょう。

今後は、再生可能エネルギーをいかに建築へ取り入れるか、建築物の改修方法やリノベーション技術、建物の延命、耐震性向上の各テーマを主眼として、研究開発を進めていきます。特に、建物の性能を高めるような建築改修技術を確立すれば、現在ある建物が社会資本として残

り、国民全体の幸福へもつながります。そのような技術の研究・開発はこれからの課題であり、私も携わっていきたいと思います。

登録組織の皆さまへ—— 品質管理に留まらず、 製品や成果にも気配りを

ISOの精神は、ISO9001の場合、品質管理のプロセスを第三者が品質や生産活動の信頼を証明することです。これは、製品や成果物を保証するものではありません。エンドユーザーが手にするのは製品や成果物。それがハードなものかソフトなものかに関わらず、でき上がったものの性能、品質チェックに第三者の目を入れるという切り口を考えることは重要でしょう。

プロセス管理とは別のチェックポイントを、もうひとつ加えたものづくりやサービス提供をしてみるのもいいかもしれません。その際には、当センターをぜひご活用ください。

■つくば建築試験研究センターの業務内容

▶ 構造性能試験研究部

主に建築分野の材料、部材、部品、工法等に関連した構造的特性に関する性能試験、性能評価、調査研究等の実施

▶ 環境・材料性能試験研究部

音・熱・空気質等の環境的性能、主として建築分野で用いられる材料の特性等に関する性能試験、性能評価、調査研究等の実施

▶ 防耐火性能試験研究部

防耐火構造、防災材料等に関する性能試験、性能評価、調査研究等の実施

▶ 技術評価部

企画立案、広報、調査研究の業務管理、試験品質の管理、耐震診断耐結果判定や建設技術審査証明事業をはじめとする任意の評価・認定に関する業務の実施と管理、分野横断的な試験・調査業務の実施と管理

FIT FOR YOU

「組織にとってより有効な審査」を通じて
パフォーマンス向上を支援する信頼のパートナー。

私たち一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センターは、
個々の組織のビジョンや課題に対応した審査の提供を通じて、
マネジメントシステムの継続的な改善を導き、パフォーマンスの向上を支援します。

マネジメントシステム審査登録

ISO9001
品質マネジメントシステム (QMS)
ISO14001
環境マネジメントシステム (EMS)

ISO/IEC27001
情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)
OHSAS18001
労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS)

一般財団法人 ベターリビングはISOマネジメントシステム審査登録の他、BL部品（優良住宅部品）の認定、建築基準法に基づく「建築確認検査」、住宅の品質確保法に基づく「住宅性能評価」等の業務を実施しています。詳細は弊ホームページをご覧ください。

一般財団法人 ベターリビング 7つのミッション

- 1 BL部品の認定
- 2 維持管理・改修
- 3 調査・研究等
- 4 試験・評定
- 5 建築確認検査・住宅性能評価等
- 6 型式部材等の認定・認証
- 7 マネジメントシステム審査登録

資料請求お見積等、お気軽にお問い合わせください。



一般財団法人

ベターリビング システム審査登録センター

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング4F TEL(03)5211-0603 FAX(03)5211-0594

<http://www.cbl.or.jp>

ベターリビング

検索

本誌は、弊センター登録組織から受領した「品質/環境/情報セキュリティ/労働安全衛生マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、弊センターから「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。弊センターは、発送委託業者との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.102 2015年1月13日発行
発行 一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター
代表者: センター長 東ヶ崎 清彦
担当: 企画管理部
TEL: 03-5211-0603 FAX: 03-5211-0594
ホームページ: <http://www.cbl.or.jp/>

